

西成区誕生から
昭和戦前期
大阪の登場で誕生した
西成区と都市計画の始動

1926年～1940年
(昭和元年～昭和15年)

① 1925年、大大阪誕生のときに西成区や西淀川区、東淀川区が西成郡から分かれて設置された。同時に東成区、住吉区もそれぞれ東成郡、住吉郡域でもって設置された。南に残された西成郡の部分が小さかったので、西成区はほぼ今の範囲の小さな区として出発した。山王、飛田、天下茶屋、岸里の一部は住吉区で、粉浜は西成区であった。今の形になるのは1943年であり、この時に阿倍野区が住吉区から分区して誕生した。



③ 大大阪誕生を記念して1925年に大阪市の百景付で刊行されたパノラマ図の一部。上町台地ぞいに勝景地が描かれ、木津川沿いに進出した数々の工場や、芦原橋から浜寺まで結ぶ新阪堺電車の予定線が書き込まれている。



② 1928年空中写真は大阪市により都市計画(特に道路)を進めるために撮影された。現国道26号線や堺筋や尼崎平野線の予定路線範囲などが描かれ、すっかり市街地化した西成区北部から中部の南海線沿線、紀州街道沿道の様子がよくわかる。また焼失以前の紀州街道沿いの天下茶屋の原景がわかる。



④ 勝間村から1915年に改名し、町制施行した玉出町の本通りのにぎわい(1924年頃)の風景。戦災でこうした風情は失われた。



⑤⑥⑦ 1924年頃、当時の今宮町役場(②)の写真の旧西成区役所)屋上から撮影した密集市街地の写真。わずか10年ほどで豊の海となっていたことがわかる。⑤は東方を望み、南海電車をはきんで遠方は現在の

の萩之茶屋エリアにあたる。⑥は西方を望み、現国道26号線建設以前の、花園町、旭通エリアにあたる。⑦は南方を望み、南海本線線路が見える。さらに遠方は、天下茶屋駅付近にあたる。

西成区誕生から
昭和戦前期
1926年～1940年
(昭和元年～昭和15年)
大阪市南部新開地の
ダイナミックな発展

① 鉄道交通網の整備はますます進展し、南海では全国初の高架複々線化が行われ、難波駅から天下茶屋駅北までの区間が1938年に完成。萩之茶屋駅付近の高架化工事中の写真である。② 地下では現御堂筋線の難波から天王寺への延伸工事がすすみ、写真は山王地区から天王寺方面をみた1937年撮影の開削工事中的のものである。遠くに当時の大鉄百貨店(現ハルカス)が見える。1938年に区内では初の地下鉄動物園前駅が誕生した。③ 1942年には現国道26号線直下に現四ツ橋線の大園町く花園町が開業する。



④ 1940年に津守に完成した大阪市最初の下水処理場の敷地上空から、西成区方面を望んだ写真。下水処理施設や本屋のモダンさは特筆すべきものであった。新阪堺電車の走る現新なにわ筋の津守神社の森や、その向こうの林となっている津守新田会所(その後の津守小学校)や、そのまわりの津守の市街地化、さらに十三間堀川の向こうの現在の梅南、松、橘方面の工場地化や、市街地化の進展ぶりが大変よくわかる。

西成区名所官衙及著名社会商舖

⑤ ⑥ 大大阪区勢地図 最新の西成区(1936年刊行)裏面に記載された区内情報である。当時の主要官衙、学校や主要工場、商店、土地会社、医院、娯楽施設、神社の紹介がある。当時の外観を写真からもうかがうことができ、玉出市民館や玉出座などの写真は貴重である。

▲玉出市民館

▲玉出座